

# 会議録

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 会議の名称                     | 令和4年度第2回川越市上下水道事業経営審議会   |
| 開催日時                      | 令和4年11月15日(火) 午後1時55分 開会 ・ 午後4時40分 閉会  |
| 開催場所                      | 中央公民館 3階 軽体育室  |
| 議長(会長)<br>氏名<br>*敬称略      | 議長:青木 亮(会長)  |
| 出席者(委員)<br>氏名(人数)<br>*敬称略 | 青木亮(会長)、佐野勝正(副会長)<br>須賀昭夫、柿田有一、川口啓介、吉野郁恵、片野広隆、大泉一夫、<br>小ノ澤哲也、山口陽子、棚沢利郎、菅間和範、横山三枝子、小池均 の各委員(14名)  |
| 欠席者(委員)<br>氏名(人数)<br>*敬称略 | 山崎宏史、宮岡寛、加藤榮壽 の各委員(3名)   |
| 事務局職員<br>氏名(職名)           | 大成一門(上下水道局長)<br>【財務課】<br>矢野雄一(課長)、馬橋洋(副課長)<br>【給水サービス課】<br>依田光司(課長)<br>【事業計画課】<br>小林武(上下水道局副局長)、田中能彰(副主幹)、石塚直子(主査)<br>【水道課】<br>新井賢一(参事)<br>【下水道課】<br>駒井和久(課長)<br>【上下水道管理センター】<br>石戸祐仁(所長)<br>【総務企画課】<br>内田真(上下水道局副局長)、飯野弘美(副課長)、野原茂久(副主幹)、<br>高梨義久(主査)、児玉陽介(主査)、小林泰貴(主任)、荒井咲樹(主事補) |
| 傍聴人(人数)                   | 1名   |
| 会議次第                      | 別紙のとおり   |

配布資料

(事前に配布した資料)

- 資料1 水道事業会計 令和3年度決算の概要について
- 資料2 公共下水道事業会計 令和3年度決算の概要について
- 資料3 水道事業会計 令和4年度予算の概要について
- 資料4 公共下水道事業会計 令和4年度予算の概要について
- 資料5 令和3年度川越市上下水道ビジョン進行管理 事業評価

(当日の配布資料)

- 会議次第
- 令和3年度水道事業年報
- 令和3年度下水道事業年報

| 議事の経過 |  |
|-------|--|
| 発言者   | 議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項   |
|       | <p><b>1 開会</b></p> <p><b>【傍聴希望者の確認】</b></p> <p>議長から傍聴希望者の有無について確認が行われ、1名の傍聴希望者に対して入室の許可がなされた。</p>  |
| 議長    |  |
|       | <p><b>2 報告事項</b></p> <p>(1) 令和3年度決算と令和4年度予算の概要について<br/>[資料1、資料2に基づき令和3年度決算に関して説明]</p>  |
| 事務局   |  |
| 委員    | <p>水道事業会計の1立方メートル当たりの給水単価と給水原価の比較というところで、3.67円の差損とあり、公共下水道事業会計のところは、7.20円の差益が出ていますので、両方合わせれば、差益になるのではないのでしょうか。</p> <p>また、支出の原因に退職給付金の増加とありますが、下水道の職員と水道の職員は同じ給与体系の同じ組織の中にあるのではないのでしょうか。なぜこれは水道の方にのみ記載されているのでしょうか。</p>  |
| 事務局   | <p>まず、水道の差損と下水の差益についてですけれども、水道事業会計と公共下水道事業会計は、それぞれ別の会計になっています。</p> <p>料金を徴収するときには一緒に徴収していますが、それぞれ水道と下水に分ける必要があります、両方合わせることができないものになっています。</p> <p>退職金の方もそうになっており、上下水道局という形で職員はいるのですが、人を水道事業会計の職員と公共下水道事業会計の職員という形に便宜的に分けている都合上、令和3年度は、たまたま水道の退職金の部分が増加原因として大きかったという理由で水道のみ記載させていただいたということでご理解いただければと思います。</p> |
| 副会長   | <p>減価償却の関係で、法定耐用年数の変更があったのかという点を伺いたいと思います。もし耐用年数が伸びているのであれば、新しい管などについては、検証がされていると思うのですが、古いものについてはどうか、というのを私は危惧しています。実際は維持費に相当の費用が掛かってくるような潜在的リスクがあるのではないかと考えていますがいかがでしょうか。</p>   |
| 事務局   | <p>法定耐用年数は、おそらく変わってはいないと思います。ただし、今お話しにありましたように、実際に使う年数というか、更新までのタイミン</p>   |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>グの考え方が伸びてきているっていう部分はあると思います。更新までのタイミングを長く見れば見る程、おっしゃる通り、不具合が起こるリスクというのは増えていくわけですから、我々は、そういうリスクを少しでも減らせるように、計画的に更新していかなければいけない。これは水道事業においても下水道事業においても同じことだと考えています。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>資料1の6ページ、資本的収支のポイント②として布設工事が896mということで、予定していた事業はおおむね実施することができたと記載されていますが、予算では2,455mの施工予定になっています。4割に満たない工事実績ですので、この書き方について少しコメントをいただきたいと思います。また、7ページにある県水購入費について、自己水源の割合が増えると、利益率は高くなるという理解でよいのか、また、水需要が減った場合、県水は購入せずに自己水源で賄っていくという考え方でよいのか、教えていただきたいと思います。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>6ページの布設工事の部分について、数字の乖離があるという点をご指摘の通りだと思います。布設工事については、どうしても申請に基づく工事であったり、他の工事に関連して施工するものであったりすることが多いため、上下水道局で当初予定していた工事については十分にできているという意味での記述になっています。</p> <p>受水費の関係については、川越市の年間配水量のうち約9割を県から購入しております。</p> <p>前年に見込んだ配水量に比べて、水需要が伸びないという場合でも、基本的には約束した量の県水を買わなければいけないので、その場合には自己水率を下げなければいけないということになります。</p> |
| <p>委員</p>  | <p>主要な営業収益である給水収益に関して、料金の未納額というのはどのくらいになるのか。またその回収はどのようにやっているのかという点を教えていただけますか。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>令和3年度（令和4年3月）の収入未済額は4億7,155万7,422円となっています。これは、調定月と納期限の関係で、納期の到来していない1箇月分全てが未納額に含まれる計算になるので大きな金額となっていますが、年度末の調定まで含めて翌年度の9月までに滞納整理を行い、最終的には99%以上の収納率となっています。</p>   |
| <p>委員</p>  | <p>少し前に何年か積み重なった未納金を精算した経緯があると思いますが、滞納されている方の回収はどのように実施しているのでしょうか。</p>  |
| <p>事務局</p> | <p>水道料金は5箇月間未納になりますと、基本的には給水停止処分となり、</p>  |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>停止になるとほとんどの方はお支払いいただけているような状況です。</p>   |
| 委員  | <p>一般的に、ガスなどは開栓をするときに保証金を預けたりすることがありますが、5箇月となると、結構な金額が残ったまま引越されてしまうこともあるのではないかと思います、その後の追跡などはどのようにされているのでしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>転出となって最終的に追えないような状況になってしまいますと、どうしても回収ができないので不納欠損という形になる場合もあります。</p>  |
| 委員  | <p>5箇月という期間が妥当かどうか分かりませんが、早めに支払っていただけるといい方法を考えていただければと思います。</p>   |
| 委員  | <p>令和3年度に給水停止とした件数はどの位でしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>令和3年度は2,663件です。</p>  |
| 委員  | <p>水道を止めてしまうと影響が大きいので、お金の問題と命の問題はきちんと切り分けて対応していただきたいと思います。</p> <p>減価償却について教えていただきたいのですが、事業年報には、ポンプ施設などの竣工年月が一覧になって載っていますが、これだけでは施設がどの位の金額、規模なのかイメージするのは難しいと思います。おそらく固定資産台帳を見れば施設の一覧や金額、償却期間などが分かると思いますが、そういった資料が存在するのか、また、それにはどのような施設が載っているのか、知識として知りたいので教えていただけますか。</p>  |
| 事務局 | <p>減価償却についてですが、例えば管の工事ですと、4条予算で工事をし、人件費などの間接費などを上乗せして台帳を作ります。そして耐用年数を40年とすると、まずは90%まで償却できるように減価償却費の計算をします。その計算を過去に埋設した全ての管の分も含めて行い、今年の減価償却費を算出します。それが毎年3条予算の減価償却費として費用化されていることになります。</p> <p>基本的には4条予算の建設改良費として支出したのに関しては、翌年度以降に全額を資産計上していますが、公共下水道事業につきましては、平成15年度に公営企業化していますので、それ以前の資産については、資産計上できていないものがあるのが実情です。</p> |
| 副会長 | <p>「会計の手引き」があると思うので、そういったもので減価償却費とか退職金はこうやっていますという説明をしてもらえれば分かりやすいので、来年から一緒に出していただいた方がよいかと思います。</p>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>それから、先ほどの説明で減価償却は90%までとありましたが、限度額について確認させてください。</p>   |
| 事務局 | <p>減価償却を計算する上では、残存価格が10%残るような形で耐用年数に応じて減価償却費を計算しています。</p> <p>ただし、有形固定資産の減価償却費の限度額は、地方公営企業法で95%までとなっていますので、そこまでは償却しています。</p> <p>また、償却可能額については、1円まで減価償却できるものもありますが、川越市では現在のところ行っていません。</p>   |
| 委員  | <p>資料2の9ページに「今後も不明水対策が必要だ」とありますが、不明水の量はどの程度なのでしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>川越市の昨年度の有収率は74%ですが、類似団体より低い数字となっています。埼玉県に流域下水道の負担金として支払っている金額は15億円から16億円程度ですが、そのうちの4億円程度が不明水相当分となっています。</p>   |
| 委員  | <p>行政としてできること以外に、個人としての対策があると思いますが、それぞれの家庭に対して「設備の点検をしてください」といったお知らせをすることはあるのでしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>「上下水道局だより」を活用した不明水に関する案内や、有収率の低い地区を絞り込んで、各家庭の雨どい等の配管が誤って汚水系統の管に接続されていないかなどの調査を業務委託により実施しています。</p>   |
| 委員  | <p>資料2の2ページで減価償却費の話がありましたが、減価償却費は一定程度均等な形で行われると思っていましたが、増減が大きく生じる要因について教えていただけますか。</p>   |
| 事務局 | <p>減価償却費は定額法で計算していますので、増減につきましては、新たな資産の取得や償却期間の経過、資産の除却などが要因となります。また、資産を取得するにあたって、補助金や受益者負担金などの収入があった場合は長期前受金として計上し、これを収益化することによって費用を正確に算出する制度があります。実際の補助金や受益者負担金の収入は、年度によって見通しにもばらつきがありますので、コントロールが難しく、年度によって増減が発生する場合があります。</p> <p style="text-align: center;">－ 休 憩 －</p> |

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | [資料3、資料4に基づき令和4年度予算に関して説明]  |
| 副会長 | <p>水道事業会計について、資料3の5ページには前年度の建設改良費の予算額30億円に対し、決算額は23億円と記載されています。その一方で今年度の予算額は昨年度より増額となっています。前年度の実績を考えるとこれだけやり切れるのでしょうか。</p> <p>公共下水道事業会計についても、建設改良費の予算額が、前年度の決算額18億円に対し24億円に増えています。これはかなりの意気込みがないと実施できないと思いますが、その辺の覚悟をお聞かせいただけますか。</p>               |
| 事務局 | <p>予算額が増えていることにつきましては、想定している工事が増えてきているというのが理由の一つになります。予算額と決算額の差は、予算を執行していく中で、入札時に金額が落ちて予算が残ることがありますし、工事につきましても他の工事の関連で施工するものもあることから、予定どおりには進まない部分もあるのが実情となっています。</p> <p>そうした中で、やらなければいけないものを精査した結果として、今年度予算を受けとめていただければと思います。</p>                   |
| 議長  | <p>他にご意見ご質問等ないようでしたら、報告事項(2)について事務局からお願いします。</p>  |
| 事務局 | <p><b>(2) 令和3年度川越市上下水道ビジョン進行管理 事業評価について</b><br/>[資料5に基づき説明]</p>   |
| 委員  | <p>10ページの生活排水処理の適正化における評価指標に関して、令和3年度における人口普及率の目標値が過年度の実績値よりも低い理由について説明していただけますか。</p>   |
| 事務局 | <p>ビジョン本編56ページに記載しているとおおり、10年後の目標が86.4%ですので、計画策定時には目標値と実績値の差を10で割り、年度ごとに積み上げたものを各年度の目標値として設定しました。一方で、人口普及率は令和3年度の時点で目標を上回っているため、現状では、予め設定した目標値が実績値を下回っている状況となっています。</p> <p>ビジョンについては、計画5年目を迎えた中間地点で、必要に応じて見直すこととしており、こうした部分についてはその対象になると考えています。</p> |
| 委員  | <p>8ページの取組実績5「小水力発電」について、具体的にどのような形態を想定しているのか、また視察先としてどちらに行くことを検討しているのでしょうか。</p>  |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | <p>再生可能エネルギーの利用については、太陽光発電など様々な検討をしていますが、小水力発電については、費用対効果の面から現状では採用には至っていません。しかし最近では、技術革新等もありまして、小水力発電の中でも更に小さいマイクロ水力発電などを活用している団体もいくつかありますので、市内の浄水場で利用可能かどうか、費用対効果を含めて改めて研究している状況です。</p> <p>視察については、今年度に入って所沢市に行かせていただきました。同市は非常に水圧の条件が良い場所に浄水場があるため、小水力発電の効果が現れていますが、川越市では同じような効果が上がらないことが判明したところです。</p> |
| 委員  | <p>20 ページのアセットマネジメントの計画について、耐用年数に合わせて管路、管きよを更新するのは難しいことだと思いますが、計画の内容についてお聞きしたいと思います。</p>   |
| 事務局 | <p>水道管であれば法定耐用年数は40年とされていますが、その年数で更新することは難しいため、例えば、耐久性があまりよくない塩ビ管は35年を一つの更新年度にしたり、耐震性能が高いポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管は80年での更新にするなど、管種に応じた更新計画をアセットマネジメントの中で運用している状況です。</p>   |
| 委員  | <p>そうした取り組みで対応できる部分もあるかと思いますが、それでは更新がとても間に合わないような事態にはならないのでしょうか。</p>   |
| 事務局 | <p>上下水道局では、重要施設配水管耐震化計画に基づき、市内の避難場所や救急指定病院、災害拠点となる公共施設などに配水する管路を重要施設配水管と位置づけ、老朽管の更新計画と並行して耐震化に取り組む工夫をしています。</p>  |
| 委員  | <p>22 ページの不明水対策については、さまざまな要因があると思いますが、各戸に対する文書指導は確実に取り組める内容だと思います。</p> <p>取組実績に関して、令和2年度における調査件数と未改善であった20戸のその後の状況、また、令和3年度に文書指導した20戸の改善状況についてお聞きしたいと思います。</p>   |
| 事務局 | <p>令和2年度は573件について調査を実施しています。20戸については未だ誤接合の状態ですので、改めて調査を実施したいと思います。令和3年度に指導した20戸の改善状況については、件数までは資料を持ち合わせていませんが、誤接合を解消した旨の連絡を何件か受けています。</p> <p>令和4年度についても調査を実施しており、18戸の誤接合を確認してい</p>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>ますが、その後の状況については確認が不十分ですので、引き続き指導や現地確認に取り組んでいきたいと思ひます。</p>  |
| 委員  | <p>水道の漏水調査について、11 ページでは調査戸数が 46,000 戸と記載されていますが、調査方法と今後の改善に向けた取り組みについてお聞きしたいと思ひます。</p>  |
| 事務局 | <p>調査戸数については市内を3分割して、1つのエリアを1年かけて調査し、3年で市全体を調査する体制としています。調査方法については、金属製の棒を管が埋設されている道路などに当て、聴診器のように漏水の音を拾う最もポピュラーな方法で実施しています。</p> <p>今後の取り組みとしては、老朽化が進んでいることもあり、公費で対応可能な公道については、重要施設配水管や老朽管を計画的に改良工事することで漏水防止に取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>漏水調査については、漏水の発見件数が年々減少しているため、古い止水栓が設置された場所に絞り込んだ調査ができないかなど、効率や費用対効果を踏まえた検討を始めています。</p>   |
| 副会長 | <p>事業評価に関して、前年度から評価が下がった事業については、来年度に向けてどのような取り組みを実施しているのでしょうか。</p> <p>また、17 ページの取組実績1にスマートメーターの利活用について検討しましたと記載されていますが、東京都では全戸導入に向けた方針が示されていますので、多少の遅れがあったとしても、川越市でも導入について検討せざるを得ないと思ひます。これに関して、昨年度はどのような調査をして、どのような印象を抱いているのか、コスト面のことを含めて説明していただけますか。</p>  |
| 事務局 | <p>評価が下がった事業については、その原因をしっかりと把握することが重要ですので、事務局と担当課で協議を行い、改善が見込める点については事務局よりアドバイスなどを行っています。</p> <p>スマートメーターについては、全国的に実証実験がスタートしており、設置のメリットとしては検針の費用削減や効率化、配水管網の改善など蓄積されたビッグデータの活用といったものが挙げられます。また、スマホアプリとの連動により、いつでも使用量を確認できることや宅内漏水の発見、一人暮らしの高齢者の見守りにも活用できるとされています。</p> <p>一方で、導入にあたっての最大のネックはコストであり、1台当たりの価格は現行の平形メーターの8倍から10倍といわれています。</p> <p>東京都でスタートした実証実験に関する概算事業費は、メーターやシステムの導入費用、通信端末等の運用費用等を合わせて約51億円という情報がありますので、これを川越市全体に導入する場合に換算しますと約72億</p> |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>円となります。</p> <p>昨年度は、局内にプロジェクトチームを立ち上げており、資料収集や調査等を開始したところであり、今後は流れに乗り遅れないよう、実施団体への視察やメーカーへのヒアリング等を行いたいと考えています。</p>   |
| 委員  | <p>14 ページの地震に対する備えについてですが、上下水道局が実施している防災訓練の概要について教えていただけますか。</p>  |
| 事務局 | <p>令和3年度は、災害対策本部の設置訓練、通信機器やツイッターを用いた情報伝達、被害情報の発信訓練、非常用発電機の操作訓練を実施しました。また、地震発生に備え、給水車を実際に用いた給水訓練や運転訓練も実施しています。</p>   |
| 委員  | <p>給水車は何台所有しているのでしょうか。また、被害が市内の広範囲にわたる場合でも対応できるのでしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>給水車は2台所有しています。そのほかに、トラックの荷台に積載可能な給水タンクを複数所有していますので、被災状況によっては給水車だけではなく、トラック等を活用することもできます。また、他団体との間で協力し合えるよう協定も結んでおりますので、市内全域で対応できると考えています。</p>  |
| 委員  | <p>災害時におけるトイレなどの排水について、対応方法の周知や対策はどのように実施しているのでしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>断水などの非常時における水の備えについては、風呂に水を溜めることや非常用飲料水の確保など、具体的な対策についてホームページなどを通じた周知が行えるよう、現在準備を進めています。</p> <p>また、下水道管の耐震化について補足させていただきますが、震災時に一番問題になるのが液状化現象です。マンホールの浮上により管路が破断してしまうと下水を流せなくなってしまうので、市内の液状化しやすい地区における緊急輸送道路については、国の交付金支援を受けて、全てのマンホールについて浮上防止対策を行っています。また、新しく布設する管路についても同様に耐震化に取り組んでいます。</p> |
| 委員  | <p>10 ページの取組実績2について、下水道の整備予定区域の方々に対する意向調査を実施したと記載されていますが、その後、接続する意思のある方はどの程度増えているのでしょうか。</p>  |

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | <p>本調査は、令和4年度に下水道整備を予定している地域を対象に、事前に接続に関する意向を確認したものですので、その後に接続を希望する方が増えたかについては把握していません。</p>   |
| 委員  | <p>今後も新たに下水道を整備する地域に対しては、同様に意向調査を実施するのでしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>合併処理浄化槽への切り替えなど、すぐに接続とはならない意見もありますが、こちらも投資したものに対して100%接続していただきたいと考えていますので、意向調査を含め、今後も粘り強く普及活動を行っていきたいと考えています。</p>                          |
| 委員  | <p>以前、アンケート調査の内容については、審議会の場で報告するとの説明がありましたが、そのような認識でよろしいでしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>埼玉県の上位計画の改定が令和6年度に予定されており、それに合わせて川越市の下水道計画についても見直しを行い、計画区域を縮小することとしています。今後は見直しの情報開示の中で、アンケート調査の結果等も含めご報告させていただく予定です。</p>                   |
| 議長  | <p>ビジョンの評価は、単年度の評価がどうだったかということよりも、評価の下がった事業や評価の低い事業について、原因究明や対策を講じることで、最終年度の目標達成に向けて取り組んでいくことが本来の趣旨だと思いますので、ぜひ来年度以降も継続して取り組んでいただきたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p><b>3 その他</b><br/>     次回の審議会の概要（日時、会場、報告予定案件）について説明する。</p> <p><b>4 閉会</b><br/>     閉会のことば（佐野副会長）</p>                                       |